



112号 令和7年3月12日

<学校教育目標>

自ら伸びる ともに伸びる

校長だより

呉市立阿賀小学校
安宗 誠



卒業式リハーサルで 阿賀っ子に伝えたこと

本日の卒業式リハーサルで、私から6年生と在校生代表で参加する5年生に伝えたことは・・・。

卒業生の皆さん、少し早いですが、ご卒業おめでとうございます。本番が3日後になりましたね。ところで、今日のリハーサル、6年生さんは何にこだわって臨みましたか？大きな声で返事をするのでしょうか？響き渡る声で歌うのでしょうか？動きを間違えないのでしょうか？こだわりたいことがたくさんあったかもしれませんね。それはそれでよいのですが、私がこだわってほしかったことは、入場するときから退場するまで、そこに6年間の自分の学びのすべて、もっと言えば、12年間の自分の成長のすべてを出し切ろうとしたのかということです。そこにこだわろうとするなら、ただ単に、声の大きい小さい、動きを間違えた間違えないの話ではなくなります。例えば声は小さくても、例えば動きを間違えても、そこに魂がこもっていたのかどうなのかという話になると思います。それは、今日の6年生、みんな本当に頑張れたと私は思います。

さて一方、5年生さんは今日のリハーサル、何にこだわって臨みましたか？すべての在校生を代表して6年生さんを心の底からお祝いする気持ちが本当にこもっていたのか？そこがいちばん大切ですね。それは、今日の5年生、みんな本当に頑張れたと私は思います。実はもう1つ、5年生にとっては大切なことがあります。それは、1年後、同じこの場所で、今日の6年生と同じように、「さすが、阿賀小の卒業生！」とだれからも認めてもらえる様子・態度……。そんな自分でいたいと心に誓ったかどうかです。そこも5年生さんには期待しているところです。

3日後の本番も、是非そのような空気での会場中がいっぱいになる卒業式にしましょう。

黙祷を捧げました（東日本大震災から14年の昨日3月11日）

